

## (様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

諸井 義人

実施月日	令和元年5月14日		
実施時間	10:00~11:30		
調査先	釜石市議会		
調査所在	岩手県釜石市只越町3丁目9番13号		
調査の目的	防災教育「釜石の奇跡」について		
調査先担当者	釜石市総務企画部総合政策課震災検証室 室長 臼澤 渉 釜石市議会事務局 主査 大信田 太郎		
内容・結果等	<p>今回、元災害復興派遣職員S氏の協力で岩手県釜石市と宮城県石巻市における防災教育及び復興状況について学ぶ機会を頂き、現地視察を含め色々と学習して来ました。</p> <p>釜石市の「いのちの教育」について 2011年3月11日の東日本大震災において釜石市の死者行方不明者数は1040名に上っている。しかし、小中学生の犠牲者はゼロという。後に釜石の奇跡と言われている。どうしてその奇跡は起こったのかは、釜石市の震災前からの防災教育において子供たちの的確な思考、判断に基づき行動できたからである。釜石市教育委員会は平成18年度から学校教育において「津波防災教育」を掲げ、取り組んでいた。保護者や地域、市防災課と連携した下校途中を想定した避難訓練、中学校では「助けられる人」から「助ける人」をキーワードに安否札配布等の取り組みをしていた。</p> <p>いのちをつなぐ未来館においては、震災当時釜石東中学生だった職員が鶴住居地区の悲劇について詳しく、体験者ならではの思いを語ってくれました。市の中心地にある防災センターにおいて多く犠牲者を出したこと。中学生たちの必死の避難の状況を説明してくれた。防災センター跡地には、鶴住居トモス地区として整備され、釜石祈りのパークには犠牲者の氏名を記し、慰霊祭を行っている。また、いのちをつなぐ未来館では、震災の悲劇を語り継ぎ、残すために防災学習施設として活動している。</p> <p><b>感想まとめ</b></p> <p>今回釜石市を訪れ、8年前の東日本大震災について自分の目と耳で確認し学習して来ました。災害はいつ・どこで発生するかわかりません。嬉野市においても昨年の豪雨は記憶に新しい。いのちを守ることが一番大切であると気づかされた。そのためには防災教育及び防災訓練が必要である。当市においても少しづつではあるが、コミュニティーにおいて地域防災訓練が行われるようになってきた。小中学校においても防災教育をもっと真剣に行い、地域と連携した訓練も必要ではないだろうか。また、被災すると避難所生活になります。その体験等も行ってみたいと思います。市役所職員やボランティア団体の初期対応も含めての訓練が必要です。</p>		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 ( 円 )
	旅費及び宿泊費		55,142
	合 計		55,142

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.2

嬉野市議会議員

諸井 義人

実施月日	令和元年5月15日				
実施時間	8:30~10:30				
調査先	石巻市役所				
調査所在	宮城県石巻市穀町14番1号				
調査の目的	東日本大震災の復旧・復興に向けた取り組み状況について 自治体からの職員派遣について 現地視察(防災センター)				
調査先担当者	石巻市福祉部生活再建支援課 課長 三浦 義彦 石巻市総務部危機対策課災害対策グループ 主査 武山 壮				
内容・結果等	<p>災害派遣職員M氏は、派遣5年目になるが石巻市にとって貴重な人材として活躍されていました。市庁舎は、元デパートを買い取り、改修して市役所本庁舎として使用されていた。M氏の協力で、仮設住宅の状況や石巻市被災者自立再建促進プログラムについて再建支援課課長による行政説明を受ける。死者行方不明者数3500人を超え、30000棟を超える家が全半壊した石巻市である。復興基本計画の進捗により、今年の9月には仮設住宅を解消し、4456戸の復興公営住宅が完成することになっている。他自治体からの派遣職員は、501自治体から延べ1360名になっている。この派遣職員の活躍により、確実に復興している。</p> <p>市庁舎の隣に13億8千万円の復興交付金を利用しての石巻市防災センターがありました。国の防災対策室よりもコンピューター制御による通信システム等を備えており、各庁舎とのテレビ会議システムなど素晴らしいものでした。そこには災害対策グループの専属の職員が配置されており、非常時及び防災教育の拠点づくりをされている。</p> <p><b>感想まとめ</b></p> <p>東日本大震災による復興は、ハード面においてはかなり復興しているように見える。しかし、自分の家を失くした精神的苦痛及び家族親族を亡くした苦痛は、一生癒えることはないのかなと思えた。石巻市に入るときに全児童108人のうち7割に当たる74人が津波に巻き込まれ死亡した石巻市立大川小学校を視察した。釜石の奇跡とは真逆の結果となってしまったことに、当時学校に勤めていた私にとって何とも言いようのない胸の痛みを感じます。安全であるべき学校で起きた悲劇である。教職員のとった行動が最悪の結果となってしまったことに、市当局や学校は想定以上の避難訓練や防災教育及び避難行動マニュアルをやっておく必要を感じた。嬉野市においても、いつ地震や豪雨災害が発生するか予測不能な時代である。故に地域での自主防災組織による避難訓練や学校と地域、行政の連携が必要であると認識した。</p>				
上記活動に要した経費	経費の内容	支	払	先	金額(円)
	旅費及び宿泊費				No.1に同じ
	合計				0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること